昭和41年(1966年)に山形県テニス協会は設立されました

山形県テニス協会設立の経緯と紹介

テニスのあゆみ

　テニスは13世紀頃フランスで皮のボールを手で打つジュ・ド・ポームが前身と云われ、15世紀に木のラケットで16～17世紀には網を張ったラケットでヨーロッパの王侯貴族の間で流行し明治10年(1877年)にウインブルドンで第1回の大会が行われました。

日本には諸説あるが、明治19年（1886年）東京高等師範学校（現筑波大）で授業にテニスが取り上げられ、ローンテニス部が設けられた。ただ、当時の用具は輸入に頼り高価だった為日本ではゴムマリを使った「軟式（現在のソフトテニス）」が盛んになったが、大正2年（1913年）に慶応義塾大が「軟式では国際交流ができない」として硬式採用に踏み切り世界へと進出し始めた。

本県では大正11年(1922年)山形高等学校(現山形大学)に庭球部が発足し、昭和30年頃(1955年)から一般にも普及し始めたが、本県も以前より軟式庭球が広く普及して居て硬式庭球人口は一桁台でなかなか普及しにくかった。

だが、そのような中でも戦前戦後を通じ**初代会長の中村喜兵衛氏**と新庄の近岡義—郎氏の両選手が東北のトッププレイヤー・又全日本ランキングプレイヤーとして国体始め全国大会でも大活躍しました。

その後時代と共に愛好者も増加し、より発展を期して

昭和41年(1966年)山形県庭球協会が設立され、その後庭球がテニスと名称が統一されたのに伴い現名称**山形県テニス協会**となった。

昭和47年(1972年)には**日大山形高校に愛好会**が発足し、昭和48年(1973年)頃からは全国的ブームとなり県内にも公営・民間のコート作られようになり多くの民間クラブ・高校・中学校にもテニス部が誕生して、平成4年(1992年)の山形べにばな国体時の県テニス人口は1万とも2万とも云われた、しかし県国体局からは未普及種目と評価された、これは組織が不十分で全国大会を一度も開催したことがなく天皇/皇后杯得点を獲得するレベルでは無かったからであった。　　その後・平成3年(1991年)の国体のリハーサル大会全日本都市対抗大会等を含め、県当局・県体協のご指導、支援の元に県協会及び各市町協会・加盟各団体と共に組織の充実と普及強化を図った。

その様な全県挙げての取り組みに呼応し、競技運営と選手団が活躍して、

平成4年(1992年)の**山形べにばな国体**での成績が(成年男子4位･成年女子3位･少年男子8位)と天皇/皇后杯得点目標の40点を20点上回る60点を獲得し山形県の総合優勝に少なからず貢献でき、県テニス界も総合的にレベルアップが図られた。

その後行われた

平成 6 年(1994 年)・全国ろうあ者体育大会

平成 6 年(1994 年)・全国私立短期大学体育大会

平成 9 年(1997 年)・全国健康福祉祭ねんりんピック

平成 11 年(1999 年)・全国中学生選手権大会

平成 11 年(1999 年)・全国スポーツレクリェーション祭

以上の山形県で開催された、各全国大会は山形べにばな国体で培われた大会運営のノウハウでいずれも大成功裡に終了することができた、特に全国スポレク祭に参加した韓国選手団とはその後日韓親善テニス交流会として毎年交互に訪問し合い、20 年を過ぎた現在も交流が続いている。

記・現名誉会長　庄司秀雄氏

歴代会長

中村喜兵衛氏
伊藤義左衛門
一柳　邦男
庄司　秀雄
竹田　悟

歴代理事長

砂野豊治朗
緒方　文雄
庄司　秀雄
武田　頼夫
松田　陽一